

笑顔カフェ 通信

第4号

令和4年1月発行

センター 活動報告

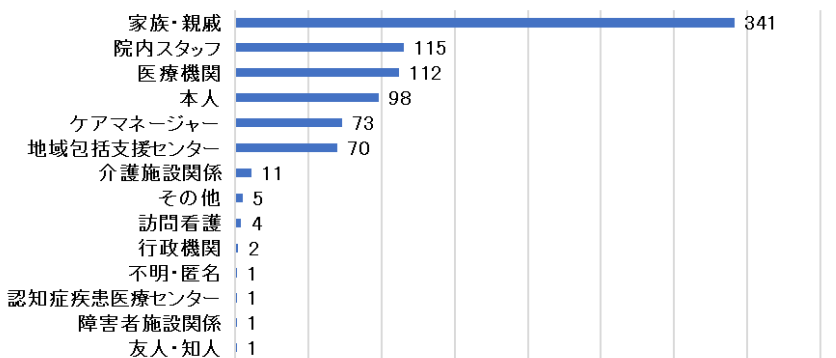
精神保健福祉士

松木 亜希子

秋田県認知症疾患医療センターでは、認知症にまつわる様々な相談に対応しています。

今年度、4～11月までの相談件数は744件となっております。ご家族からの相談が一番多くなっていますが、ご本人やかかりつけの先生からもご連絡をいただいています。

相談者



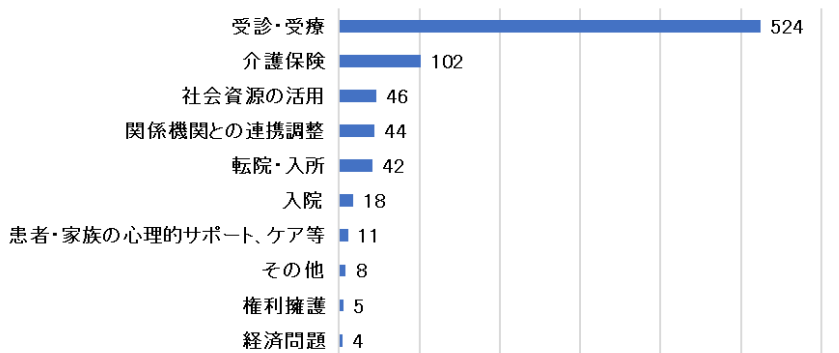
相談件数

文書
34件(5%)

面談
136件(18%)

電話
574件(77%)

相談内容



受診予約のお電話以外にも、介護保険サービスや、ケア等についても専門の相談員がお話をお伺いしています。

「どこに相談したらいいかわからない」

「誰に話したらいいかわからない」

そんな時は、ぜひ当センター相談窓口をご活用ください！

認知症と お薬のお話

センター長

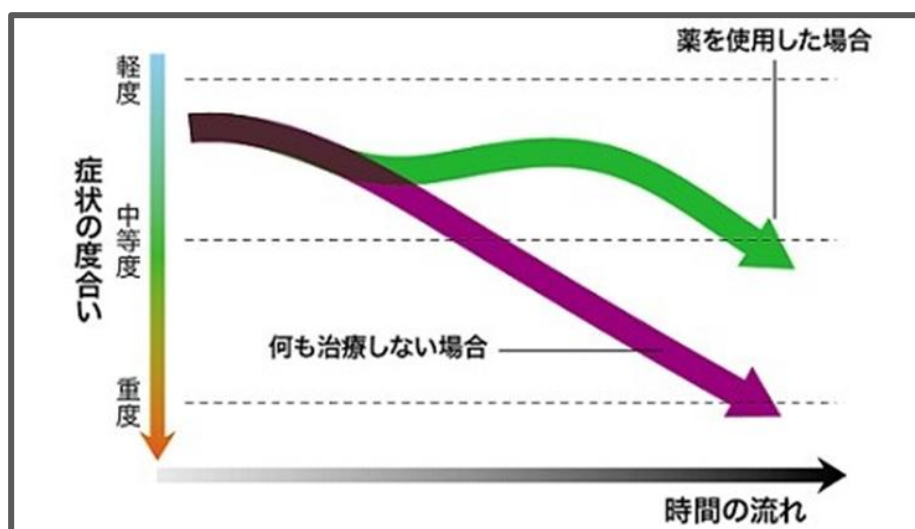
内藤 信吾

認知症は脳の神経細胞が徐々に無くなることによって、脳の機能が低下する病気です。認知症に効果のある薬はありますが、無くなった細胞を再生する・無くなるのを防ぐ薬はまだ見つかっておらず、今後の研究が待たれるところです。また、現在アルツハイマー型認知症（4種）とレビー小体型認知症（1種）に使える薬はありますが、それ以外の認知症には、残念ながらはっきりと効果が期待出来る薬はありません。

現在使用できる認知症の薬は4種類あり、それぞれ特徴や副作用などが異なりますので、患者様に合った薬を探す作業が必要となります。

期待できる効果としては以下の二つがあり、症状、薬を飲む回数、介護してくれる人の負担、薬を飲みこむ力の程度、薬をどのように誰が管理するか、副作用の種類などにより選択されます。薬を飲み込む力が弱い場合には、皮膚に貼るタイプの薬もあります。

- ① 脳全体の活動が低下した結果、元気がなくなったり、やる気がなくなってしまう。このような場合に、脳を活性化する薬によって気力が回復する可能性があります（ドネペジル・ガランタミン・リバスチグミン）。
- ② 脳の細胞の働きのバランスが崩れると、怒ったりイライラしたりする症状が出る場合もあります。このような場合、脳の活動を穏やかにしたり、神経のバランスを調節する薬が使われます（メマンチン）。



（図：認知症と薬の効果）

一度使って合わないからと言ってあきらめる必要はありません。
根気よくお医者さんと相談し、自分に合う薬を見つけましょう。

市立秋田総合病院 秋田県認知症疾患医療センター

【専用電話】 018-866-7123 【受付時間】 平日 9:00～16:00